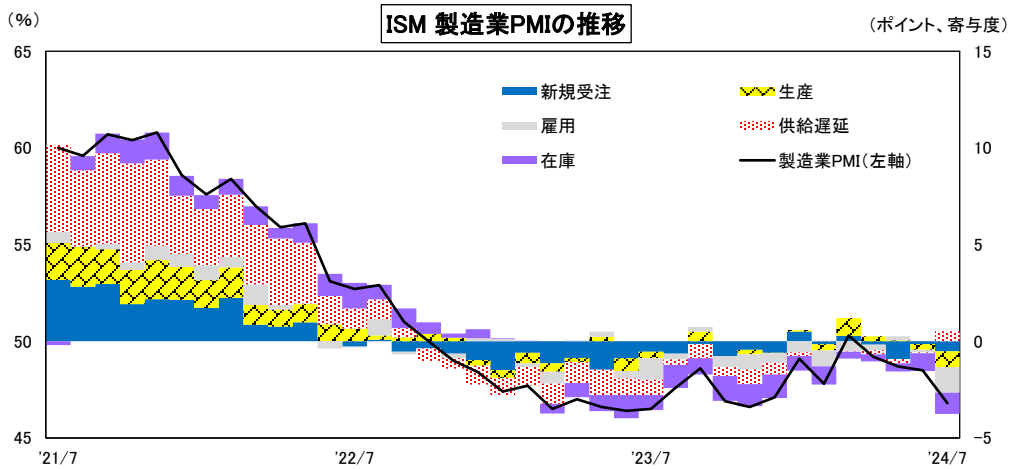
リサーチ＆ソリューション第１部　佐古 佳史

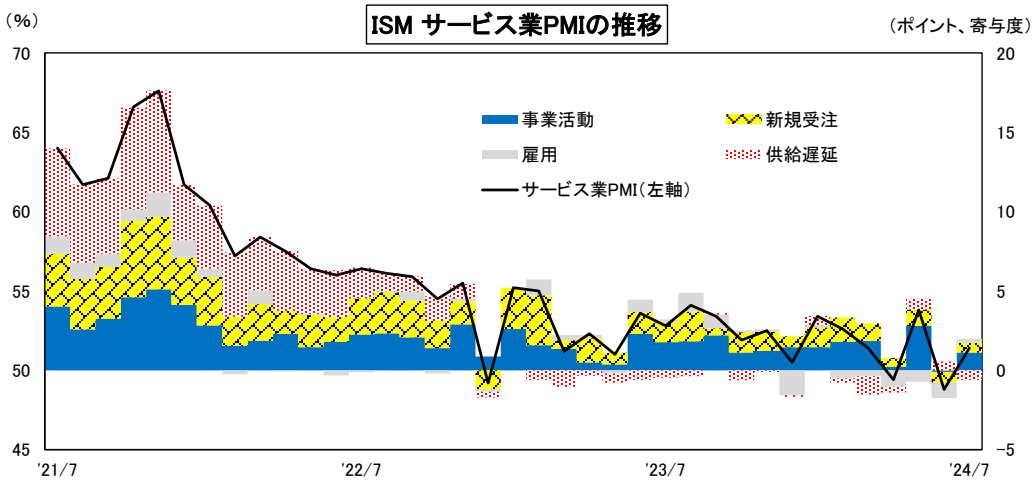
（米国）サービス業指数が 50%を回復

1 日に公表された 7 月の ISM 製造業指数は、前月から▲1.7 ポイントの 46.8%と、判断基準となる 50%を 4 か月連続で下回り、製造業の縮小局面を示した。内訳をみると、新規受注、生産、雇用、供給遅延、在庫がそれぞれ同▲1.9、▲2.6、▲5.9、+2.8、▲0.9 ポイントとなり、雇用指数の低下が大きかった。それ以外の指数としては、価格指数が同+0.8 ポイントの 52.9%と、製造業部門の価格上昇を示した。



（資料）ISM、LSEG （注）各指数の寄与度は、50%からの乖離分とウェイトの積。

6 日に公表された ISM サービス業指数は、前月から+2.6 ポイントの 51.4%と、判断基準となる 50%を 2 か月ぶりに上回った。内訳をみると、事業活動、新規受注、雇用、供給遅延がそれぞれ同＋4.9、＋5.1、+5.0、▲4.6 ポイントとなった。なお、価格指数は同+0.7 ポイントの 57.0%とサービス業の価格上昇傾向を示唆した。



（資料）ISM、LSEG （注）各指数の寄与度は、50%からの乖離分とウェイトの積。

8 月に入ると、7 月分の雇用統計が軟調だったことから米景気後退懸念が強まったが、ISM サービス業指数が判断基準となる 50%を回復したことは安心材料となった。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/